



華麗なる図書館利用者のための

Cool Librar

カールリブラ

講座

カジのうら若き青春黙示録

文/カジ

えっ？ 定期テストって毎日半日で帰れる

神イベントじゃなかったの!?

【前回までのあらすじ】

中学2年の新学期に急遽訪れた春。担任の気まぐれ席替えを見事にかわし、学園のマドンナ千絵ちゃんの隣の席をキープ。順風満帆に思われたカジ少年に、また新たなピンチが訪れる…

定期テスト。中学生にとつてそれは、平穩な日々を訪れる風のような存在だ。とはいえ、テストの成績なんぞには全く興味のなかったカジ少年にとつてそれは、学校を半日で帰れる神イベントのはずだった。

しかし！2年生初めての定期テストが迫りつつあったある日、千絵ちゃんがこんなことを言い出す。

「カジくんはテストの順位どれくらい？」
「ああ、困った… ただでさえ学校嫌いのカジなのだ。テストの成績がいいわけないのだよ。学年400人中、ギリギリ100位以内に入るぐらいの鳴かず飛ばすのセンチメンタルボーイなのだ。」

「2桁かなあ…」
迷いに迷つて発した言葉がこれだ。嘘はついてないよ、嘘は。ところがどっこい、千絵ちゃんという子は困つちやうぐらいのポツティブ子！2桁をかなり上位側の2桁、何なら10番ぐらいと勘違いしたらしく「さすがだね☆」
と0円スマイル！

これは雲行き怪しいぞと思つてたら…
「じゃあ、次のテスト勝負しよ！」
ほらきたよ。まっすいよまっすいよアホがばれるよ。

「不必要な勝負事は悲しみしか生まないよ…」

カジ渾身のお断り言葉に、さすがの千絵ちゃんもちよつびりしよんぼり気味…
「わかんない問題とか教えあつて、2人で一緒に勉強したかつたんだけどなあ…」
は〜い、やりま〜す☆ 千絵ちゃんと2人でお勉強できるなら勝負しま〜す！
かくして『2人で一緒に勉強』という魔法の言葉により、定期テスト勝負が決定。カジの敗北は火を見るより明らかだが…

